

江戸東京

たてももの園  
だより  
67

Edo-Tokyo Open Air  
Architectural Museum

- 新しい年度を迎えて
- 復元建造物を大切にするための修繕 —報告と予定—
- ゲリラ雷雨にそなえて「下町夕涼み」における安全対策
- 特別展「昭和100年と江戸東京たてももの園」
- 注目! 2026年は川野商店建築100周年
- 事業予定 2026年(令和8)4月~2027年(令和9)3月
- スケッチブック/たてももの園日誌

# 新しい年度を迎えて

江戸東京たても園 園長 市川寛明



## 博物館をめぐる社会

新しい年度が始まります。今年度も事故なく、ひとりでも多くの来園者に喜ばれる運営に心掛けたいと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。

さて1993年(平成5)3月28日に開園した江戸東京たても園は、2026年(令和8)4月に34回目の新年度を迎えます。振り返れば、開園当時、大正昭和期の建物が作り出す街角風景は都内各所に残っていました。しかし、そうした懐かしい東京の風景は、いまやたても園でしかみられません。このことは、たても園の収蔵方針の確かからしさを示すものであり、園の存在意義をますます声高に主張できるようになると、ひそかに自負しております。

この間、博物館をめぐる、いくつもの大きな変化がありました。なかでも近年の変化といえば、ICOM(国際博物館会議)における博物館の定義の大きな改訂があります。2019年(令和1)9月、ICOM京都大会で一致をみなかった新しい博物館定義が、続く2022年ブラハ大会で正式に改

定されました。この流れは国内にも引きつがれ、従来から議論されていた論点をあわせて博物館法が70年ぶりに改正され、2023年(令和5)4月1日に施行されました。改正の骨子には、博物館の多様な役割(文化観光・まちづくりへの貢献など)、さまざまなレベルでの連携・協力の強化が盛り込まれることでした。

この流れに添うように江戸東京たても園でも緩やかながらも確実な変化が起こっています。国籍や障害の有無にかかわらず全ての人にたても園を楽しんでもらえるように様々な努力を積み重ねています。なかでも外国人来園者の増加は実に顕著であり、来訪の喜びの声を多く聞きます。また地域の方々との連携により、当園のイベントは着実に「地域の暦」に組み込まれたように感じます。とりわけ、近隣の東京学芸大学と連携したワークショップ普及事業に参画するようになりました。

たても園は近年の博物館への要請の流れを踏まえ、より一層の社会貢献を実践していきたいと思えます。

## たても園を深める

とはいえ従来からある使命を疎かにするわけにはいきません。開催中の特別展「昭和100年と江戸東京たても園」ではビクターセンター(旧光華殿)の歴史的な役割を再確認し、新しい側面を掘り出しました。また2026年度末に開催予定の特別展「万世橋交番と盛り場の風景」も復元建造物「万世橋交番」にスポットライトをあてる基本的なスタイルの展覧会で、交番を通して新たな都市の側面を描写する予定です。これらの展覧会は園に移築された建物資料の研究を深めた成果です。このように特別展を通して調査・研究をより一層深めていきたいと思えます。

## 建物を伝える

そのためにはたても園の復元建造物を完全に管理していかねばなりません。開園して33年という年月は、建物にとっては劣化を必然にします。失われた20世紀前半の風景をよりよい姿で次世代に継承していくことは、たても園にとっては中核的な使命です。計画的に実施されている修繕事業を続け、今に生きる自らの資料を適切に保存し、未来に伝える役割を果たしていきたいと思えます。



風呂敷ワークショップの風景



東京学芸大学との連携事業「ワークショップクリエイター育成プログラム」の活動風景(下町夕涼み・ちびっ子縁日)

## 新しい年度を迎えて

この10年は博物館にとっては大きな転換点だったと振り返られるのではないかと思います。その時代の中で、資料の収集・保存・活用、調査・研究、展示・普及という基本的な使命を実現し、そのうえで社会への貢献を目指すという二階建ての取り組みを行う——そんな気持ちであらたに、江戸東京たても園が活躍できればと願っています。

## 復元建造物を大切に守るための修繕

報告と予定

たても園では、復元建造物を良好な状態で保存・公開していくため、計画的に修繕工事を実施しています。そのため毎年度、一部の建物で見学をお休みしております。

令和7年度に修繕工事等のため見学を休止した建物は、左記の3棟です。これらの建物につきましては、工事終了に伴い公開を再開する予定です。是非みなさまのご来園をお待ちしております。

### 2025(令和7)年度工事(終了)

#### 【西ゾーン】

◆八王子千人同心組頭の家(主な工事内容:茅葺屋根の修繕)

◆三井八郎右衛門邸(主な工事内容:内部修繕、耐震補強)

#### 【センターゾーン】

◆伊達家の門(主な工事内容:番所における瓦葺屋根の修繕)

また令和8年度も、工事に伴い見学を休止する建物がございます。見学休止の建物と時期が決まりましたら、公式ウェブサイトやSNSなどでお知らせ



令和8年度修繕工事予定の旧自証院霊屋(向拝柱や高欄の漆塗りが劣化している様子)

せいたします。特に左記の建物は工事の予定がございますため、見学をご希望の方は事前に公式ウェブサイト等で公開状況をご確認いただけますと幸いです。ご迷惑をおかけいたしますが皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

### 2026(令和8)年度工事(予定)

#### 【センターゾーン】

◆旧自証院霊屋(主な工事内容:一部漆塗り修繕)

◆会水庵(主な工事内容:外壁の修繕、設備更新)

#### 【東ゾーン】

◆仕立屋(主な工事内容:設備更新)

(安藤亜由美)

## ゲリラ雷雨にそなえて「下町夕涼み」における安全対策

江戸東京たても園の夏の風物詩といえば毎年8月の第一土曜・日曜に開催している「下町夕涼み」です。昨年度で20回目となり、すっかり恒例の行事として皆様に親しまれているのではと思います。この下町夕涼みですが、大きな転換点を迎えています。

近年夏に行われる屋外イベントや花火大会などが相次いで日程変更や中止になっていることを耳にしたことがあるかと思いますが。これは短時間に局地的に降る集中豪雨、落雷を特徴とするいわゆるゲリラ雷雨によるものが多く原因となっています。急激に降りだすため予測が難しく、しかも1時間当たり数十mmから数百mmの降水量となり、雷を伴うことも多く、屋外にいと非常に危険です。

幸いなことにこれまで下町夕涼みはゲリラ雷雨によって開催中止となったことはありませんが、運営体制を変更する必要があると判断いたしました。皆様に楽しんでいただいている下町夕涼みそのものを中止にはしないよう、緊急時に屋内に避難していただく場

所を確保したり、気象情報の確認を密に行って中止の際は即時にSNSなどで発信するなどの対応を実施して来ましたが、それらに加えそのためには事前予約制を導入し、入園者数の制限を行うことなども検討しております。

夕涼みについての情報は今後公式ウェブサイト等で逐次ご案内していきます。ご来園を予定されている際は事前にご確認いただきますようご協力をお願いいたします。



ゲリラ雷雨により池のように冠水した園内(高橋是清邸西側の通路)

# 特別展 昭和100年と江戸東京たてもの園



紀元二千六百年記念スタンプ用絵葉書 地號 御式場



紀元二千六百年祝典 胸章

たてもの園には江戸時代から昭和に至る様々な建物が移築されています。商店や農家さらには山の手住宅など、これらは現地保存できなくなった建物ですが、移築以前は数十年にわたって旧地に立ち続けていました。その間、その場所の役割が大きく変わることはなかったでしょう。

しかし、たてもの園のある小金井の地は、昭和の時代なかで、極めて特殊な変遷をたどりしました。東京の郊外にあって、時代の要請に応えた機関・施設が設置され続けたのです。

## 紀元二千六百年記念式典の式殿

たてもの園入口のビクターセンター1。この建物が最初に建てられたのは1940年(昭和15)でした。この年は神武天皇即位から2600年にあたるとされ、日本国中で国家的祝賀ムードが醸成されていました。11月10日、宮城前広場(当時)で紀元二千六百年記念式典が行われました。その式場に建てられたのが、京都御所の紫宸殿に似

た式殿でした。式典の様子は絵葉書や新聞に記録されたほか、祝賀の記念品や食饌などに窮えます。

## 戦争と光華殿

式典が挙行されたこの年、時代は戦争へと突き進んでいきます。総力戦体制

### 第三 奉拝

光輝ある紀元二千六百年式典に当り畏くも 天皇 皇后兩陛下の臨御を仰ぎたる光栄の光華殿に拝進し玉座に咫尺して侍坐す。肅然として当時の盛典に参するが如く、修遠肇國の古を偲び、八紘に光破する聖徳の源く所深きを仰ぞ。感字何ぞ限りあらん。ここに皇國民本然の清明の赤心に聖壽の無窮をことほぎて大御前に禮びいつき奉り大御後威の下報效の誓を新たにし皇國命の達成につとめはげめてその美を濟さむことを期す。

### 要式

- 一、職員及修練生は學寮毎に「常の昇降口」より昇殿す。
- 一、光華殿に参入したる時一揖し、進みて指導官の指揮の下に定められたる位置に就き、謹みて不動の姿勢を執り玉座に向ひ深揖して端坐す。
- 一、主任指導官玉座の大御前に拝進し最敬礼を行く。一因從つて最敬礼を行ふ。
- 一、主任指導官詔勅を奉讀す。
- 一、一因敬禮
- 一、全員一揖し指導官の指揮の下に光華殿を退下す。
- 一、左記事項心得べし。
- イ、光華殿奉仕當番は一般の光華殿参進以前に清掃其他を完了し置くこと。
- ロ、昇殿の際には順次に足を清拭し手水を使ふこと。
- ハ、光華殿内は徐歩にて謹み歩行すること。
- ニ、光華殿内の位置は別に之を示すこと。
- ホ、各班歸室の上家郷に向ひ敬すべし。

国民 「鍊 日規」(抄)  
(出典:「総力戦体制と教育」の総合的研究 資料集二) 戦時下教育研究会 一九八四)  
\*光華殿で行われた参拜の方式

華殿と命名したのでした。

国民錬成所では各地域の指導者であった中等学校教員や校長、国民学校長、高等学校教授などを修練生として迎え入れ、心身の鍛錬、精神の修養を実施しました。その様子は絵葉書に伝えられています。開設の翌年、国民錬成所は教学錬成所と改称されます。

戦争の時代のなかで、極めて特殊な役割をたてもの園の地は担ったのでした。



小金井緑地 絵葉書 競技

## 戦後の光華殿

終戦後、復興に向けて学校が再開されます。私立学校として再出発した学

習院は、空襲によって目白キャンパス内の木造建物の大半が全焼したため、光華殿を含む教学錬成所跡地へ中等科を移転しての再開となりました。

この時、皇太子殿下(現、上皇陛下)の学習院中等科への進学が決定していました。学習院は文部省から土地と施設の無償貸与を受け、光華殿と周辺の建築物をそのまま校舎や学生寮などとして転用しました。葉山御用邸近くにあった供奉院宿舎を解体・移送して、東宮御仮寓所として建設し、小金井にキャンパスを整備しました。

1946年(昭和21)、皇太子殿下は小金井緑地で勉学生活を始めたのでした。

## 武蔵野郷土館と光華殿

1954年(昭和29)1月、東京都立小金井公園が開園しました。その公園のなかに設置されたのが武蔵野郷土館でした。

武蔵野郷土館の運営には武蔵野文化協会があたり、武蔵野の歴史の調査・研究、遺跡の保存等を目的として活動しました。戦後の復興そして高度経済成長へと社会が移り変わるなか、考古学研究の「基地」として活躍したので

そして、光華殿はその研究成果を活用する展示室として利用されたのです。

## ビクターセンター

1993年(平成5)、武蔵野郷土館を継承し、江戸東京たてもの園が開設されました。

江戸の昔から火災・水災・震災・戦災などにより、多くの貴重な歴史的建造物が失われました。このようななか、たてもの園は現地保存が不可能な文化的価値の高い歴史的建造物を移築し、復元・保存・展示し、貴重な文化遺産として次代に継承することを目指して設置されました。

式殿そして光華殿は江戸東京たてもの園のビクターセンターとして生まれ

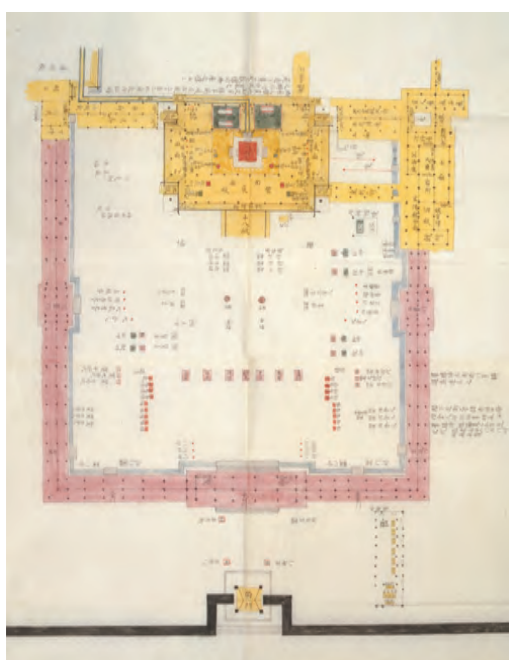
制構築へと社会的・政治的な要請が高まり、思想戦に対応しかつ精神の総動員を図る教育体制を目指すようになります。1942年(昭和17)、文部省はその中核機関として、現在のたてもの園の敷地付近に国民錬成所を設置し、象徴的な建物として式殿を移築し、光

変わったのです。

## 小金井大緑地から小金井公園

式殿からビクターセンターへ、時代の流れの中で独特な役割がこの建物に期待されました。建物のみではなく、小金井公園の変化にも目を見張るものがありました。その変遷を概観すると、1939年(昭和14)に策定された東京緑地計画に基づく小金井大緑地から始まり、戦時下には防空の役割を担い、国民錬成所・教学錬成所が営まれ、戦後に東宮御仮寓所・学習院によるキャンパスの時代を経て、小金井公園へと移り変わります。

このように昭和の時代を、独特な役割を期待されてひた走り、今の小金井公園そして江戸東京たてもの園に繋がったのです。  
(学芸員 齋藤慎一)



三都古城殿館之図 其外処之図  
京都市御所紫宸殿之図

\*資料はすべて江戸東京博物館所蔵



# 事業予定 2026年(令和8)4月▶2027年(令和9)3月

復元建造物をはじめとする建築に関する事業や、当時の街並みの情景を味わうことのできる催事を開催します。

## 展示年間スケジュール

### ●昭和100年と江戸東京たてもの園

3月20日(金・祝)～6月21日(日) \*本誌4～5ページを参照

### ●武蔵野の歴史と民俗 ～「武蔵野郷土館」がのこしたモノたち～

7月18日(土)～12月13日(日)

武蔵野郷土館の収蔵資料を公開する役割を引き継いだたてもの園では、武蔵野郷土館収蔵資料展を継続的に開催しています。考古資料や歴史資料などのほか、生業や生活、信仰、娯楽に関する民俗資料を紹介します。

### ●万世橋交番と盛り場の風景

3月20日(土)～6月20日(日)

当園の復元建造物のひとつ、「万世橋交番(須田町派出所)」があった神田須田町一帯は、江戸時代以来、交通の要衝であり、近代以降も繁華街として大変賑わった場所でした。本展覧会では、明治時代に誕生した交番の歴史や建築、周辺地域とのつながりを掘り下げ、建造物の背景及び近代における東京の風景の再発見を試みる展覧会です。

## こどもの日イベント

5月

昔のくらしや子どもたちの遊び昔の生活の様子を楽しみながら体験できます。

4日(月・祝)・5日(火・祝)



## 夜間特別開園

### たてもの園 下町夕涼み

8月

大人も子どもも、昔懐かしい夏の縁日を楽しめます。

1日(土)・2日(日)



## 夜間特別開園

### 紅葉とたてもののライトアップ

11月

紅葉が深まる時季に、色づく木々とたてものをほのかな光で美しく照らし出します。

21日(土)・22日(日)



## たてもの園でお正月

1月

古くからこの地域に伝わるお正月の餅つき歌、太神楽や獅子舞など伝統的な民俗行事で新年を寿ぎます。

2日(土)・3日(日)



### 伝統工芸の実演

毎月第2土曜日と翌日曜日  
東京で活躍している職人による実演を行います。

### 綱島家年中行事

梅の土用干し(7月)、盆棚飾り(7月～8月)、十五夜飾り(9月)、節分(2月)など、綱島家で行われていた季節に応じた年中行事の展示を実施しています。

## 成人の日はたてもの園へ

1月

人力車での園内巡りや、昭和の写真館での記念撮影などで、ハレの日をお祝いします。

11日(月・祝)



### ミュージアムトーク

毎月第4土曜日に当園の学芸員などが展示や建造物にまつわるトークを行います。

※開催日や内容・名称が変更になることがあります。  
詳しい情報は公式ウェブサイトでご確認ください。  
※写真は過去の開催の様子です。

# 注目! 2026年は川野商店建築100周年



移築工事 1998年(平成10)



移築前の川野商店の外観

川野商店は、建物の部材に残されている墨書や建築当初の古写真等から、1926年(大正15)に建てられたことが明らかになっています。2026年(令和8)の今年、建築100年の節目を迎えるにあたり、移築に際して行われた聞き取り調査の記録をもとに、川野商店の商売について簡単ではありますがご紹介いたします。

川野商店の特徴として、壁に取り付いた腕木が「出桁」と呼ばれる軒先の長い横材を支える「出桁造り」で建てられた建築であるほか、今日では珍しい「和傘問屋」を営んでいた店舗兼住宅であることが挙げられます。また、各家庭に固定電話が普及する黎明期に設置された「電話室」が、当初のまま残っていることも注目ポイントのひとつです。

川野商店が和傘の商売を始めたのは、明治時代末頃と伝わっています。かつては製造業も行っていたようですが、主に和傘製造に必要な竹材、紙類、糊、油などの材料を職人に卸す問屋業を営んでいました。また、川野商店では、和傘の名産地である岐阜県、和歌山県、静岡県から完成品を仕入れて、茨城県や千葉県などに卸す業務も行っていました。

和傘製造の最盛期は明治時代中頃から昭和時代の初め頃です。当時、川野商店がかつて所在した現在の江戸川区東小岩の辺りでは和傘製造が盛んに行われており、「小岩村は傘屋でたつ」と言われるほどでした。しかし、やがて洋傘の普及に伴い和傘を取り巻く商売は徐々に下火となつていき、次々に廃業または歌舞伎などで使用する舞踊傘の製造業に転身するなどしました。川野商店も戦後まもなくして店仕舞いをしたそうです。

その後は、和傘職人に卸す材料を保管するための倉庫として使用していた板蔵(現存せず)を、駄菓子屋や理容店等に貸していました。1989年(平成1)に、板蔵にユニットバスやトイレなどの設備が設置されて居住用に貸問されておき、和傘問屋としての役割を終えた後も建築の一部は改築を伴いながら徐々に活用されていきました。

それから数年がたった1996年(平成8)、江戸東京たてもの園に移築保存されることが決定しました。翌1997年(平成9)2月から解体工事が着手となり、園内の現在の位置に移築され、2000年(平成12)1月に竣工、公開されました。公開に際しては、川野商店で商売が最も繁盛した1930年(昭和5)の頃の様子を再現展示する方針が取られました。

現在では、和傘や和傘の制作工程を紹介する展示が行われており、今日では貴重な存在となつた「和傘問屋」のくらしと商売について多くの来園者に伝えてい

(学芸員 生田真菜)

# たてもの園公式YouTubeチャンネルができました

スケッチブック

情報化社会によってさまざまな分野でデジタル化が進み、博物館にも多角的な広報が求められています。今まさに紙の広報誌を手元にされている方も、紙媒体だけでなくSNSを活用したり動画を視聴したり日々の生活でたくさんの情報手段を使い分けているのではないのでしょうか。アナログにもデジタルにもそれぞれの利点がありますが、博物館にとってSNS



たてもの園公式YouTube

は情報伝達手段のひとつとして非常に重要です。

今回たてもの園では建造物のみどころを紹介する動画を制作し、YouTubeで公開を始めました。1本3分前後の短い動画で、通勤中やちょっとしたスキマ時間にも気軽にご覧いただくことができます。この動画は、だれもが芸術文化に親しんでいただける取り組みの一環として、手話や字幕、音声ガイドがついています。

まだまだ動画の本数は多くありませんが、これから少しずつコンテンツを増やしていきたいと思っています。

動画やたてもの園の取り組みを「いいね♡」と思っていただけたら、ぜひ周りの方にもシェアしてください！

YouTubeを通して多くの方に建物の歴史やたてもの園の魅力を知っていただけるきっかけになれば嬉しいです。

(飯濱妙)



## たてもの園日誌 2025年(令和7)10月～2026年(令和8)3月

2025年(令和7)	
7/19(土)～12/14(日)	展覧会「武蔵野の歴史と民俗～『武蔵野郷土館』がのこしたモノたち～」
10/1(水)	都民の日(観覧無料)
10/1(水)～5(日)	網島家年中行事「十五夜飾り」
10/11(土)・12(日)	伝統工芸の実演「日本刺繍/漆工芸」
10/12(日)	前川國男生誕120周年記念シンポジウム(共催:市民・建築NET)
10/18(土)・19(日)	東京大茶会2025(主催:東京都、アーツカウンシル東京)(観覧無料)
10/25(土)	ミュージアムトーク「武蔵野の歴史と民俗～『武蔵野郷土館』がのこしたモノたち～みどころ」(手話通訳付き)
10/30(木)～11/3(月・祝)	網島家年中行事「十三夜飾り」
11/8(土)・9(日)	伝統工芸の実演「木版画彫/鍍金」
11/22(土)	ミュージアムトーク「ピジターセンター(武殿・光華殿)」(手話通訳付き)
11/22(土)・23(日・祝)	夜間特別開園 紅葉とたてものライトアップ
12/11(木)～12/12(月・祝)	網島家年中行事「大根干し」
12/13(土)・14(日)	伝統工芸の実演「江戸切子/木版画彫」
12/20(土)	ミュージアムトーク「江戸時代の多摩」
12/25(木)～1/1(月・祝)	年末年始休園

2026年(令和8)	
1/2(金)・3(土)	たてもの園でお正月(観覧無料)
1/10(土)・11(日)	伝統工芸の実演「刀剣研磨/染色補正」
1/12(月・祝)	成人の日はたてもの園へ
1/14(水)～1/18(日)	網島家年中行事「小正月・繭玉飾り」
1/24(土)	ミュージアムトーク「茅葺屋根の修繕工事」
2/3(火)	網島家年中行事「節分」
2/11(水・祝)	ワークショップ「まどりインタビュー～うちの記憶をめぐる対話の時間」
2/14(土)・15(日)	伝統工芸の実演「牙彫/彫刻硝子」
2/28(土)	ミュージアムトーク「建物に飾られた絵で対話型鑑賞する」
3/14(土)・15(日)	伝統工芸の実演「金工/江戸象牙」
3/20(金・祝)～6/21(日)	特別展「昭和100年と江戸東京たてもの園」
3/21(土)～31(火)	開園時間を変更(1時間延長)
3/23(月)	臨時開園
3/27(金)・28(土)	たてもの園フェスティバル
3/28(土)	たてもの園開園記念日(観覧無料)
3/28(土)	ミュージアムトーク「特別展「昭和100年と江戸東京たてもの園」みどころ」(手話通訳付き)
3/30(月)	臨時開園

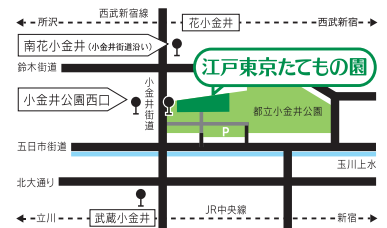
建造物修繕などの工事 [八王子千人同心組頭の家]10月21日(火)～3月下旬、[伊達家の門]11月5日(水)～3月下旬、[小寺醤油店]11月26日(水)～3月下旬、[三井八郎右衛門邸]1月20日(火)～3月下旬

**開園時間**  
4月～9月 9:30～17:30  
10月～3月 9:30～16:30  
※入園は開園時刻の30分前まで

**休園日**  
毎週月曜日  
※月曜日が祝日または振替休日の場合は、その翌平日  
年末年始

**交通**  
JR中央線「武蔵小金井」駅よりバス5分 北口2・3番のりばから「小金井公園西口」下車、徒歩5分  
西武新宿線「花小金井」駅よりバス5分 「南花小金井(小金井街道沿い)」から武蔵小金井駅行き「小金井公園西口」下車、徒歩5分  
※ご来園の際は公共交通機関をご利用ください。当園専用駐車場はありません。車の場合は、小金井公園内の有料駐車場をご利用ください。

**観覧料**  
一般 400円(320円)  
65歳以上の方 200円(160円)  
大学生(専修・各種含む) 320円(250円)  
高校生 200円(160円)  
※( )は有料入園者20名以上の団体料金  
**中学生以下は無料**



**江戸東京たてもの園**  
EDO-TOKYO OPEN AIR ARCHITECTURAL MUSEUM

〒184-0005  
東京都小金井市桜町3-7-1(都立小金井公園内)  
TEL.042-388-3300 FAX.042-388-1711  
www.tatemonoen.jp



※ご来園の際は最新情報を公式ウェブサイトにてご確認ください。